

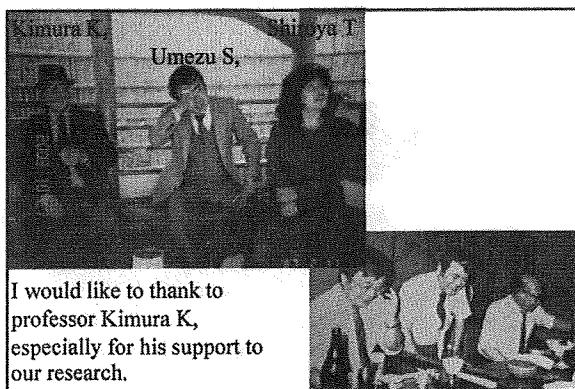
# 抜粋



最初にこの機会を与えていただいた本会の Professor Takasaki K, Yamamoto M両先生方をはじめ、この発表の司会をお願いした Professor Sunagawa K, その他の国際外科学会日本部会の全ての役員・先生方、特別講演のご発表、司会・座長をとっていただいた先生に深く感謝いたします。 不完全な報告でございますが、本会でお世話になつた内容も踏まえて、私なりの外科医としてこれまでの経験をお話させていただきます。 また、今回の開催に大変お世話になつた執行・石原両副会長、伊藤豊事務局長、お手伝いいただいた先生方にも御礼いたします。

Before starting my presentation, I would like to show you pictures of the most distinguished masters of surgical fields, for whom I was deeply moved.

Professor Nakayama K., Dr. Wakabayashi T., Dr. Ohmori S.

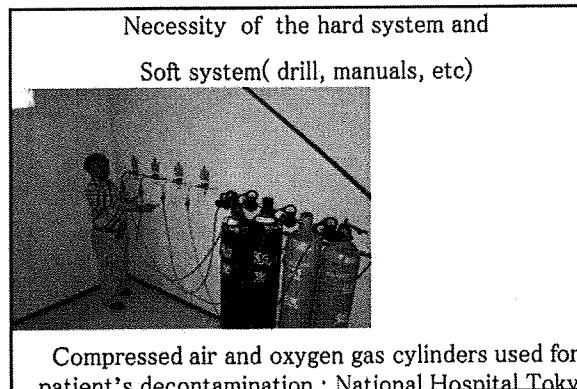
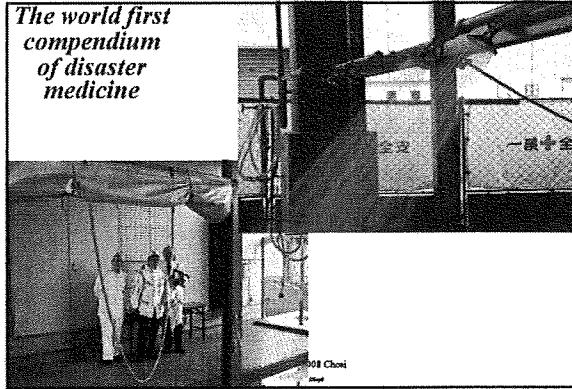


I would like to thank to professor Kimura K., especially for his support to our research.

My participation to International College of Surgeons			
回	開催年月日	開催地	日本部会開催史
			ホームページより抜粋
35	1989(昭和64, 平成1) 9.22	東京 大塚 敏文	所属 日本医大
36	1990(平成2) 7.20	久留米 掛川 崇夫	久留米大
37	1991(平成3) 4.9 1991(平成3) 4.10	京都 戸部 隆吉	京都大
38	1992(平成4) 11.6-7 (CMEプログラム実施)	東京 木村幸三郎	東京医大

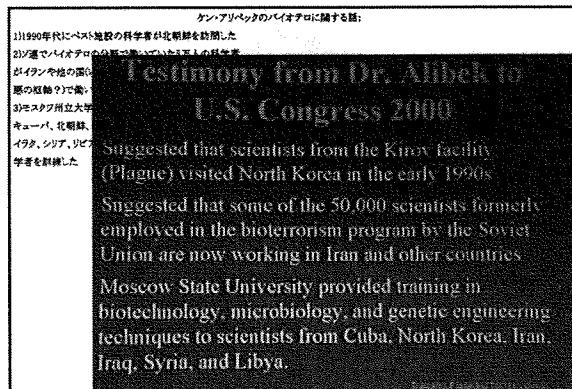
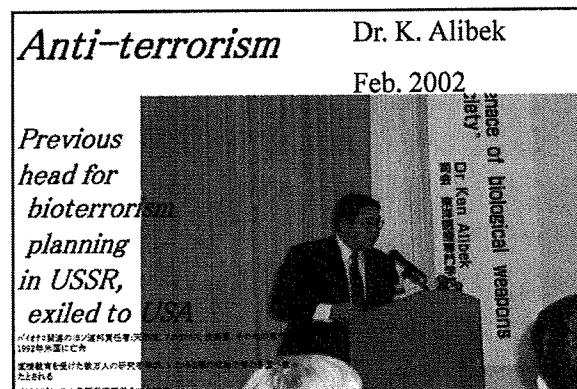
<http://www.ics-japan.org/katudo/rekidai.html>

# 抜粹

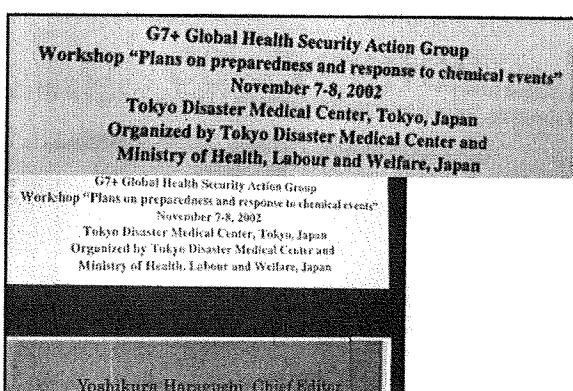
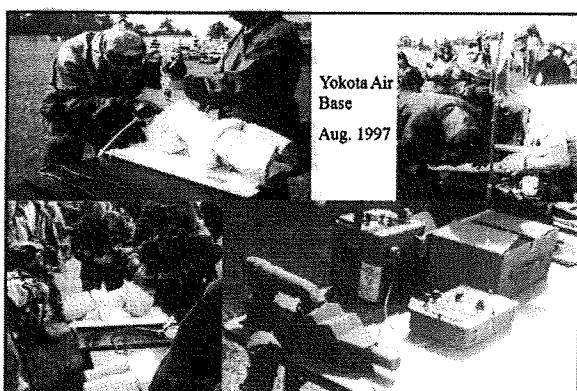
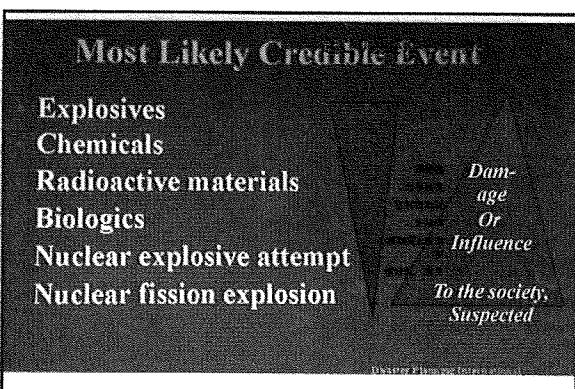
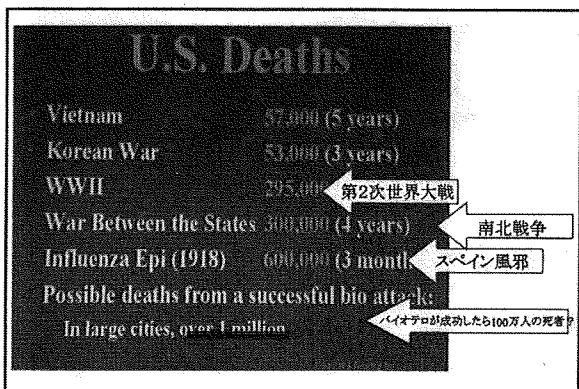
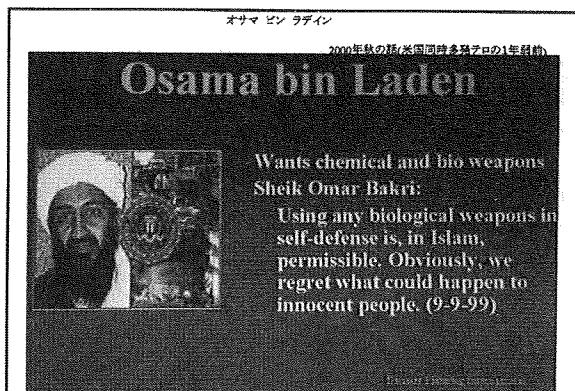
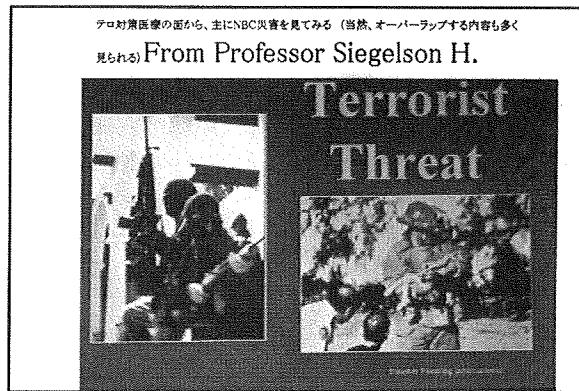


## 4. Terrorism

Y Haraguchi, Y Tomoyasu, H Nishi  
Tokyo Disaster Medical Center



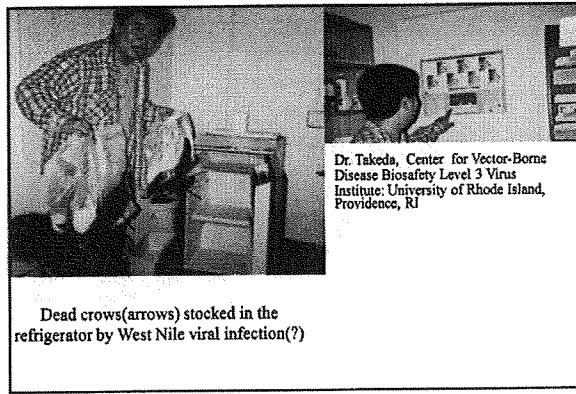
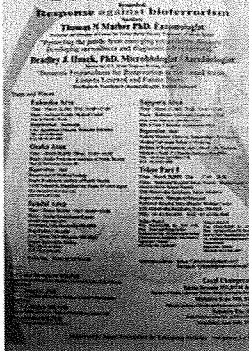
# 抜粋



# 抜粹

The research against bioterrorism and pandemic was started since 2001, and the research team against flu pandemic was newly started 2008, and now underway.

## Anti-Bioterrorism



## Trial procedures for protecting society against flu outbreak/pandemic

Yoshikura Haraguchi, Yozo Tomoyasu, Hosei Nishi

Japanese Disaster Medical Compendium Team

Outbreak or pandemic of a new type (new strain) of influenza is feared globally, in which the number of casualties is expected to increase exponentially. Our proposed countermeasures are presented below. Appropriate measures were studied. One of the themes of this study was how to maintain social activity, because it is also thought to be important alongside an effective medical health care system. Measures should be prepared from a macroscopic viewpoint (bird's eye view) in addition to microscopic methods. Although the primary hardware/mechanical damage seems minimal in comparison with those from an earthquake, the secondary damage or negative effects for people's activity or workforces are serious. (1) Medical emergency systems against pandemic, including those of hospitals, police, rescue and fire department, and self-defense force, (2) governmental support systems, (3) a system of close coordination between the lifeline organizations (companies, schools, and local resident's associations) should be prepared.

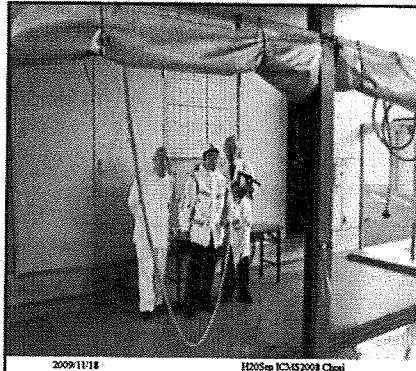


拔粹

The results are presented and a small drill will be performed just after the meeting.

#### Acknowledgement

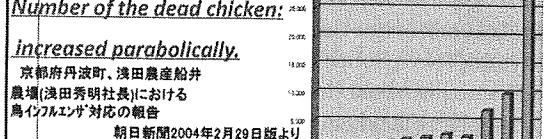
Thanks to all doctors and experts who supported our research, especially to Professor M. Ishida, M. Sugiura, H. Tasaka, T. Maehara, J. Hachiya, Y. Itai (University of Tokyo), Dr. T. Wakabayashi, M. Hoshi, M. Sakonji (Tokyo



*Our first experience about open source file API's is very much*

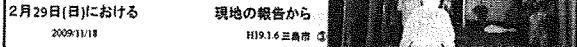
Editorial 22-22245-K-1-5-1

三一七

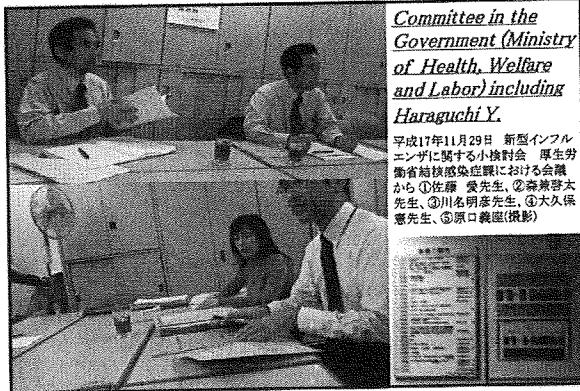


京都・鳥インフルエンザ確認 「大量死で出荷早めた」

### 三日の 遊園



# 抜粋

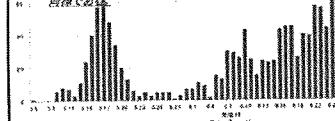


*Committee in the Government (Ministry of Health, Welfare and Labor) including Haraguchi Y.*

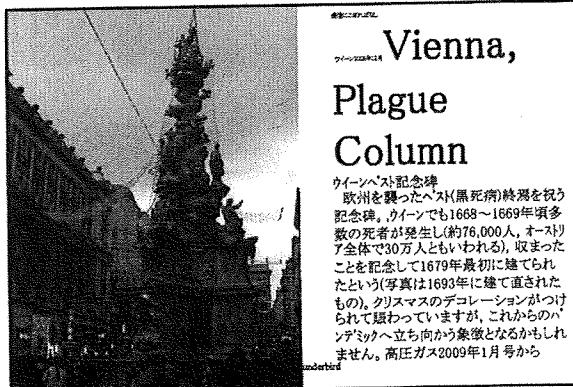
平成17年11月29日 新型インフルエンザに関する小検討会 厚生労働省結核感染症課における会議から ①佐藤 愛先生、②森兼啓太先生、③川名明彦先生、④大久保亮先生、⑤原口義蔵(撮影)

From Homepage of National Infectious Diseases Institute 国立感染症研究所 感染情報センターホームページ

*Number of patients of New strain flu : from May till July 2009  
in Japan. 総感染者数の増加は、感染者の死亡率は上昇傾向です。*



*Quarantine, thermometer: 空港検疫における対応-摺付型体温測定器と旅行者(爆発的)*



*Vienna,  
Plague  
Column*

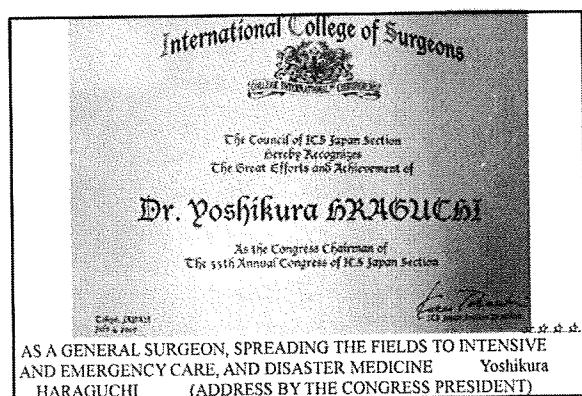
ウイーンペスト記念碑  
欧洲を襲ったペスト(黒死病)終焉を祝う  
記念碑。ウイーンでも1668~1669年頃多  
数の死者が発生し(約76,000人、オースト  
リア全体で30万人といわれる)、収まつた  
ことを記念して1679年最初に建てられた  
といふ(写真は1693年に建て直された  
もの)。クリスマスのデコレーションがつけ  
られて継わっていますが、これからバ  
ンダナへ立ち向かう象徴となるかもしれません。  
高圧ガス2009年1月号から

Acknowledgement: Thanks to all doctors and experts who supported our research, especially to Professor M. Ishida, M. Sugiura, H.Tasaka, T. Maehara, J. Hachiya, Y. Itai (University of Tokyo), Dr. T. Wakabayashi, K. Saitoh, M. Hoshi, K. Suzuki, H. Kimura, T. Sakuma, M.Sakonji, T. Takahashi, M. Nozaki, Y. Azuma, T.Kubo, N. Kamiya, D.Nagata, T. Tsubata(Tokyo Police Hospital) and Y.Tomoyasu , T. Ueda, Y. Itoh, Daibo (National Hospital Tokyo Disaster Medical Center).

## Acknowledgement (cont.)

Once again, special thanks to Professor Kozaburo Kimura (Tokyo Medical University), Toshishige Wakabayashi (Tokyo Police Hospital) and Hosei Nishi (Tokyo Disaster Medical Center)  
And for supplying maximal efforts for holding this meeting to Dr. H. Taguchi, S. Umezawa, Y. Itoh, T. Shigyo, Y. Tomoyasu, and S. Daibo.

55th Meeting 国際外科学会日本部会  
第55回総会 International College of Surgeons Japan Section



# 抜粋

## 7月 第13回日本渡航医学会 福岡市

原口義座による補足説明：前半は、スペインインフルエンザを参考資料にしている。すなわち多面的に考える必要があるといえる。

代表的な例をここに提示する。

日本渡航医学会でのご発表である。御礼申し上げます。

スペインインフルエンザの国や地域による超過死亡率	
国、地域名	超過死亡率
オーストリア	0.29% (0.28~0.31)
オランダ	0.63% (0.61~0.65)
オランダ	0.20% (0.18~0.22)
インド	4.39% (4.30~4.39)
ボンベイ(現・ムンバイ)	4.11% (3.7~4.20)
マドリード(現・マドリード)	2.39% (2.38~2.40)
日本	0.94% (0.93~0.95)
米国	2.00% (2.00~2.01)
ヨルダン	0.39% (0.38~0.39)

米国	超過死亡率
コロラド	0.30% (0.29~0.30)
ニュージャージー	1.00% (0.94~1.05)
ウイスコンシン	0.63% (0.61~0.65)
カリフォルニア州	0.25% (0.23~0.27)

10月 東京臨海病院 第2回新型インフルエンザ受け入れ訓練 ドライブスルー対応施行

研究分担者および添付資料参考のこと

## 第2回 新型インフルエンザ受け入れ訓練計画 ドライブルー対応

### 4) 訓練手順

感染予防対策委員会

#### 1. 目的

新型インフルエンザ（H1N1）が全国的に蔓延し、当院へ受診する患者も増加している。現在流行している新型ウイルスは、弱毒性ではなくほとんどは重症のまま回復しているが、重症化し死亡するケースも増えている。このことからもウイルスの変異が急速に起こり、強毒化する可能性は否定できない。

今回、江戸川区内で強毒化した新型インフルエンザが大流行し、多数の患者が来院する事態を想定し、一般患者と新型インフルエンザ疑い患者を接触させない診療体制（ドライブルー方式）について検証する。

#### 2. 訓練日時

平成21年10月8日（木） 15時00分～16時00分

#### 3. 訓練場所

駐車場（当日に訓練場所を決定）、救命外来

#### 4. 訓練の概要

##### 1) 訓練設定

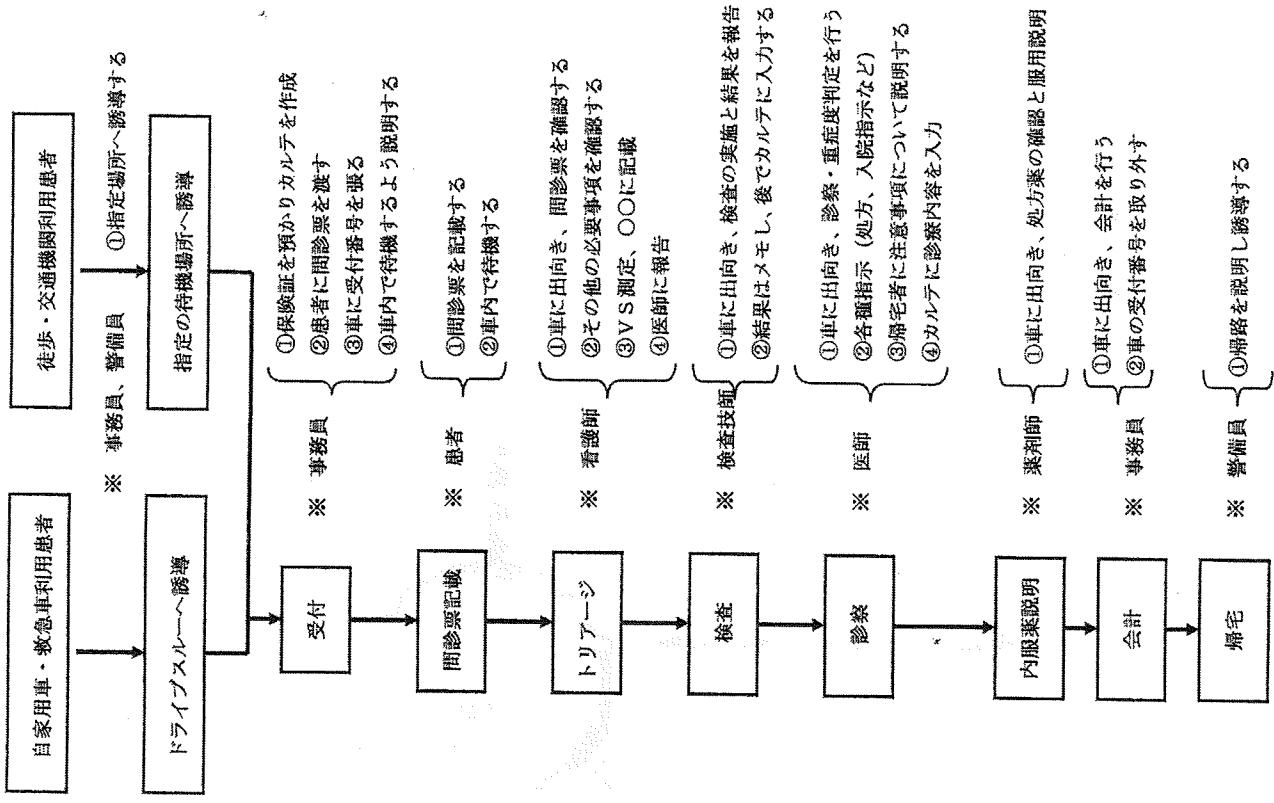
江戸川区内において、強毒化した新型インフルエンザに罹患したと思われる患者が多数発生し、一般外来に受診依頼が急増している。中には救急車で搬入される患者も散見される。感染対策委員長は緊急の委員会を召集し、「新型インフルエンザ対応診療体制」の実施を指示した。

##### 2) 訓練内容

- ①医療チームは救命外来に集合して、新型インフルエンザ対応診療体制を整える。
- ②対象患者をドライブルーへ誘導する。
- ③駐車スペースを確保する。
- ④車内の診療・重症判定を行う。
- ⑤誘導から会計までの所要時間を査定する。
- ⑥感染防護具（PPE）の選定と着脱方法について。

##### 3) 医療チーム

- ①医師3名（救急科、小児科、内科系）
- ②看護師3名（診察介助2名、トリアージ1名）
- ③検査技師1名
- ④薬剤師1名
- ⑤事務員1名
- ⑥患者（車）3～4名





## 発熱外来診療チェックリスト

下記の事項をお書き下さい

氏名:	男 女
生年月日:	大昭平年月日生( )歳
住所:	
連絡先:	携帯電話:
同居者:	無 有 ⇒ ① ② (有の場合、氏名を記入) ③ ④

患者様記入

あてはまる□にレ点(チェック)をつけてください

1. 新型インフルエンザ患者(疑い者)との接触がありましたか? (過去10以内)  
 10日以内に新型インフルエンザ(疑い)の患者と接触(1~2mに近づく)した。  
 10日以内に新型インフルエンザ流行地域へ滞在・立ち寄りをした。

## 2. 現在の状態について

- 発熱(38°C以上)  歩くと  座っていても )  噫から  のどが痛い  
 息苦しい、(  噫から  座から  頸から  鼻水が出る  
 せきが出来る  噫から  金身がだるい  食欲がない  
 筋肉痛・関節痛  下痢している  頸から  頸から  
 水分が取れない、  吐いてしまう  
 吐き気がする  その他( )

3. 駆往歴(今までの病気)について  
 高血圧  糖尿病  呼吸器疾患( )  
 アレルギー( )  
 その他( )

## 1. 接触歴

- 1) 無 有 (状況: )

## 2. 診療記録

- 1) 全身状態 : 良好 不良
- 2) 所見 : 苍白 紅潮 苦悶状 他( )
- 3) サイン : 体温 ℃ 心拍 /分 血圧 / mmHg  
呼吸数 /分 パルスオキシメーター %
- 4) 呼吸状態 : 呼吸困難 ( 有 無 ) 呼吸音 (異常なし 異常あり )

- 5) コベント :

## 3. 検査オーダー

- 採血  検尿  
 検査オーダー  検査  
 インフルエンザ迅速診断  
 胸部レントゲン  
 胸部CT  その他( )

## 4. 診断

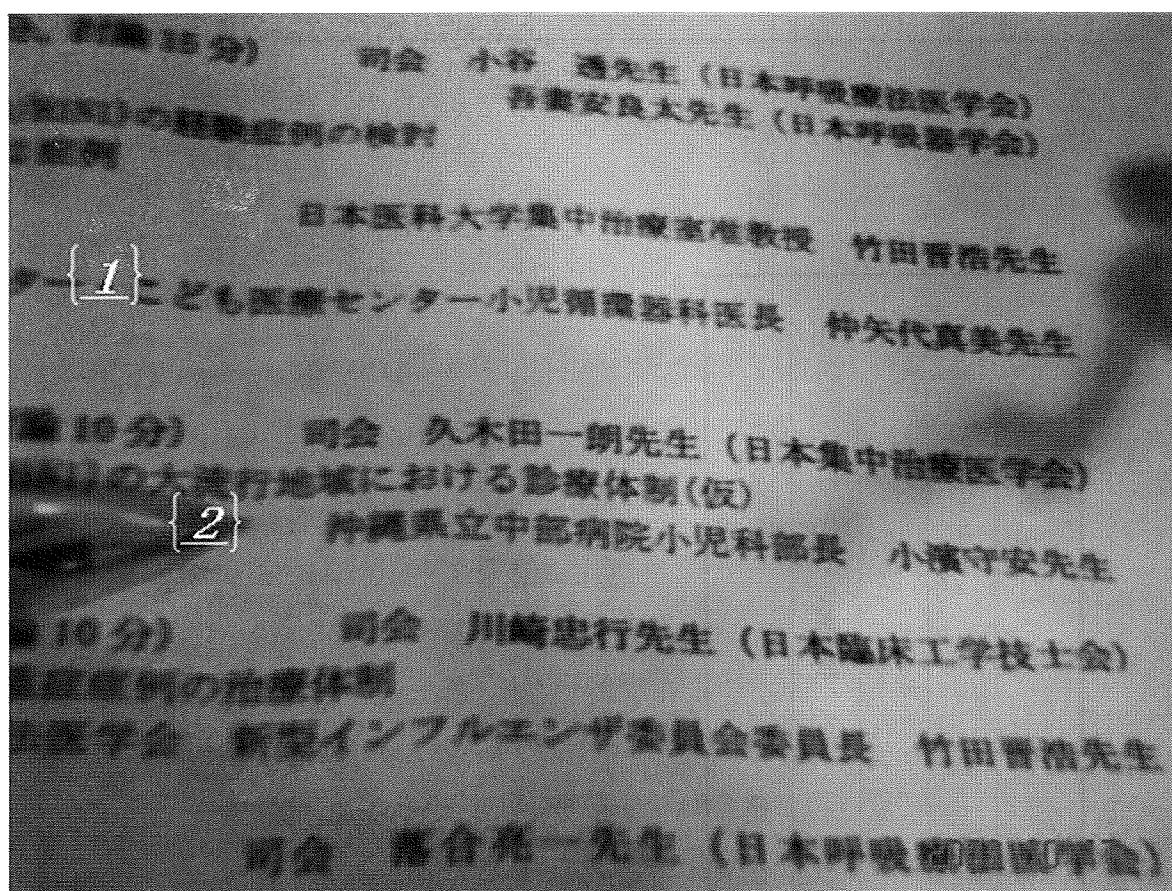
- 新型インフルエンザ疑い  
 その他( )

## 5. 指示

- 入院  自宅療養  再受診( )  
 処方

# 10月 新型インフルエンザにおける 重症患者の治療に関する研修会 (日本医科大学)記録から

ここでは、沖縄県立こども医療センター等における活動の報告を、上記の会合でお示しいただいたスライドの写真で紹介させていただくのみとし、詳細な説明は省くものとさせていただく。大変精力的なご努力でご活躍されていることを高く評価させていただきたいと考えている。



## 新型インフルエンザ(A/H1N1)による重症患者の治療に関する研修会

日 時：平成 21 年 10 月 17 日（土）17 時～21 時

場 所：日本医科大学、教育棟 2 階

〒113-8602 東京都文京区千駄木 1-1-5

TEL03-3822-2131

主 催：厚生労働省

共 催：日本呼吸療法医学会

### ◆プログラム

- 17:00 開会挨拶 厚生労働省
- 17:10 基調情報(1) (講演 10 分、討論 10 分) 司会 丸川征四郎先生 (日本呼吸療法医学会)  
演題：我が国における新型インフルエンザ(A/H1N1)流行の現状  
厚生労働省健康局結核感染症課新型インフルエンザ対策推進室室長補佐 高山義浩先生
- 17:30 基調情報(2) (講演 20 分、討論 10 分) 司会 中川 聰先生 (日本小児科学会)  
演題：新型インフルエンザ(A/H1N1)の病態生理学的な特性(仮)  
秋田大学大学院医学系研究科情報制御学・実験治療学講座教授 今井由美子先生
- 18:00 海外情報 (講演各 20 分、討論 10 分) 司会 相馬一亥先生 (日本救急医学会)  
演題：H5N1 誘導の ARDS  
国立国際医療センター戸山病院手術部長 河内正治先生
- 休憩
- 18:35 国内症例の検討 (講演各 20 分、討論 15 分) 司会 小谷 透先生 (日本呼吸療法医学会)  
吾妻安良太先生 (日本呼吸器学会)  
演題：新型インフルエンザ(A/H1N1)の経験症例の検討  
人工呼吸管理に至った 2 症例  
日本医科大学集中治療室准教授 竹田晋浩先生  
自験例のまとめ (仮)  
沖縄県立南部医療センター・こども医療センター小児循環器科医長 仲矢代真美先生  
その他
- 19:30 今後の課題(1) (講演 20 分、討論 10 分) 司会 久木田一朗先生 (日本集中治療医学会)  
演題：新型インフルエンザ(A/H1N1)の大流行地域における診療体制(仮)  
沖縄県立中部病院小児科部長 小濱守安先生
- 20:00 今後の課題(2) (講演 10 分、討論 10 分) 司会 川崎忠行先生 (日本臨床工学技士会)  
演題：治療施設と機器から見た重症症例の治療体制  
日本呼吸療法医学会 新型インフルエンザ委員会委員長 竹田晋浩先生
- 20:20 総合討論 (40 分) 司会 落合亮一先生 (日本呼吸療法医学会)
- 21:00 閉会挨拶 厚生労働省

## 10月 新型インフルエンザ講演会

原口義座補足説明:

本研究班の活動として、最大規模で行ったものである。

国内での最初にパンデミックとして発生した神戸での専門家の医療対応の記録としても重要と考え、川田諭一先生が中心となって力をいれた活動である。

動画記録も保存している(配布資料には含まれない)。

手引きとして、別添。

平成21年9月24日

関係各位

厚生労働省 新興・再興感染症研究

「新型インフルエンザ大流行に備え訓練に関する研究」班  
主任研究者 原口 義座 国立病院東京災害医療センター

「緊急 新型インフルエンザ講演会～医院・診療所における対応のてびき～」

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、医院・診療所の外来における医療関連感染防御並びに患者集中への対応の視点から、  
分担研究者 川田 諭一（茨城県古河保健所長）を中心に、訓練のてびきの作成を試みました。

作成には、今春神戸市内で集中する患者と感染防御に奔走した先生方、並びに、動物における  
感染管理を研究なさっている先生に協力をいただいております。また茨城県古河市内の医院・診  
療所の先生方には、実際に院内での訓練の様子を撮影させていただきました。

神戸で実際に何が起きていたのか、動物における感染とウイルスの毒性とは何か、また実務上  
の問題点は何か、それぞれの立場でのご講演をいただきます。

ご参加くださいます皆さまとは、大規模感染症にどのように備えるべきなのか、情報を共有し、  
今秋・冬の流行に備えたてびきに反映させて参りたいと存じます。

つきましては、本講演会に是非関係者のご参加を賜りますようお願い申し上げます。

記

1. 日 時 平成21年10月12日（月） 13：30～16：30

2. 場 所 つくば国際会議場 2階 中ホール200

（茨城県つくば市竹園2-20-3 TEL：029-861-0001）

3. 対 象 医院、診療所、病院の医師、看護師、産業医、歯科医師、感染管理者等医療関  
係者。新型インフルエンザ対策に関する大学研究者、自治体職員。

4. 定 員 200名

5. 受講料 無料、ただし事前登録制。

（駐車場は有料となり個人負担となりますのでご了承願います。）

6. 申込み 参加申込書に必要事項記入の上、FAXにて10月9日（金）までに  
03-3519-6255まで送信ください。

※共催：古河市医師会 日本医師会生涯教育学術講演5単位をお渡します。

## プログラム

1 開会

2 あいさつ 厚生労働科学研究:新型インフルエンザ大流行に備えた訓練に関する研究

主任研究者 原口義座（国立病院東京災害医療センター）

3 秋冬の流行に備えて 厚生労働省 新型インフルエンザ担当課（予定）

4 概要説明 分担研究者 川田 諭一（茨城県古河保健所長）

5 ご講演 1) 発熱外来、今春の体験を踏まえて

林 三千雄（神戸市立医療センター中央市民病院 呼吸器内科・感染症科医長）

2) 開業医の対応、今春の自院での経験を踏まえて

陰下 敏昭（陰下内科）

3) 発熱外来並びに院内感染の管理、今春の体験を踏まえて

吉田 弘之（神戸大学医学部附属病院 感染制御部副部長）

4) 動物界におけるインフルエンザ感染症、その教訓から

白井 淳資（東京農工大学 農学部獣医学科 獣医伝染病学講座 教授）

6. 閉会 ※アンケート調査回収

「緊急 新型インフルエンザ講演会～医院・診療所における対応のてびき～」

参加申し込み用紙

お手数ながらFAXにて10月9日（金）までにご返信ください

返信先 FAX 03-3519-6255

送信日	2009年 月 日	
ご氏名 ・ ご所属	ご氏名	ご所属
電話		
FAX		
E-mail		

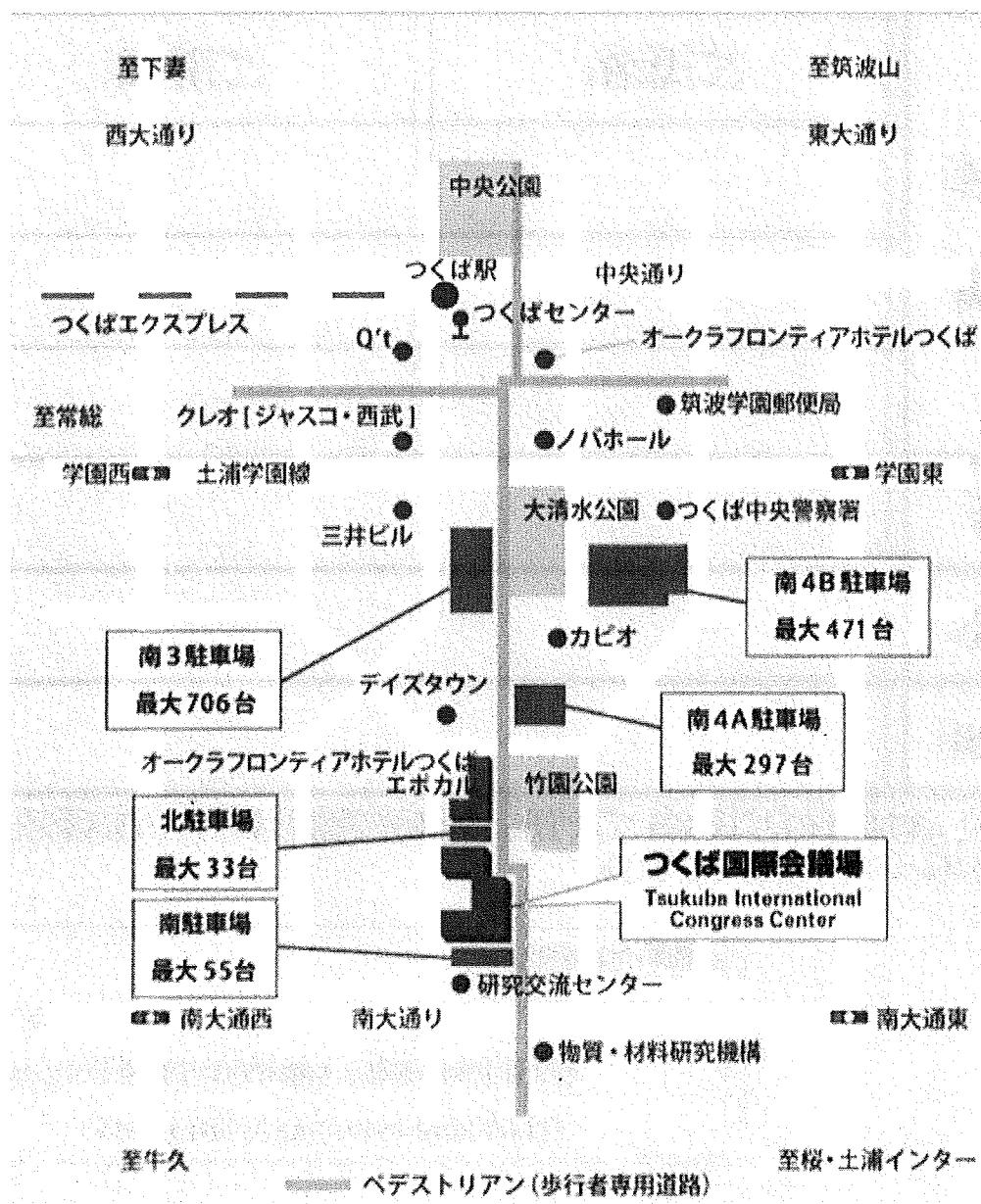
※送信日、参加者のご氏名・ご所属、連絡先電話番号,FAX番号、E-mailアドレスをご記入ください

お問い合わせ先：

「新型インフルエンザの大流行に備えた訓練に関する研究会」事務局

特定非営利活動法人危機管理対策機構(担当:細坪・平吾)

TEL03-3519-6270 FAX03-3519-6255



## 緊急 新型インフルエンザ講演会 DVD 一覧

日時：平成 21 年 10 月 12 日(月)午後 1 時 30 分～

会場：つくば国際会議場中ホール

### ■ 第 1 巻 (全 1 時間 24 分)

#### 1・1 開会の挨拶 (6 分)

主任研究者 原口義座 (国立病院機構災害医療センター)

#### 1・2 てびきの概略説明 (25 分)

分担研究者 川田諭一氏 (茨城県古河保健所長)

#### 1・3 発熱外来、今春の体験を踏まえて [質疑応答含む] (53 分)

演者 林 三千雄氏 (神戸市立医療センター中央市民病院呼吸器内科感染症科医長)

### ■ 第 2 巻 (全 1 時間 31 分)

#### 2・1 開業医の対応、今春の自院での経験を踏まえて (38 分)

演者 隠下敏昭氏 (陰下内科クリニック)

#### 2・2 発熱外来並びに院内感染管理、今春の体験を踏まえて [質疑応答含む] (33 分)

演者 吉田弘之氏 (神戸大学医学部附属病院感染制御部副部長)

#### 2・3 動物界におけるインフルエンザ感染症、その教訓から (18 分)

演者 白井淳資氏 (東京農工大学農学部獣医学科獣医伝染病学講座教授)

#### 2・4 閉会のご挨拶 (2 分)

分担研究者 川田諭一氏 (茨城県古河保健所長)

11月 アジア・中国・北京における新型インフルエンザ対応の視察：北京日本大使館記録

若林領事に深謝いたします。